

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπピア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しい介護への転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
総括			
<p>24年目を迎えた2019年度は、社会福祉法人光朔会オリμπピアにとって、重要な位置づけとなる1年であった。</p> <p>介護報酬改定による収入減、介護・保育の人材不足によるコスト増加によって大きなダメージを被った2018年度の結果を受け、法人理念の実現と運営の安定化のため、財政基盤の確立を第一の目標として取り組んだ。</p> <p>ホームページ・各種SNS・メディア等を活用し、法人の取り組みを外部に向けて情報発信することにより、利用者のニーズの掘り起こしを行い、収入を確保するとともに、多くの人材を確保することができた。また、法人全体で工夫を凝らし、テクノロジーの活用等によりコストを見直すことにより、多くの無駄を削減することにも成功した。</p> <p>この結果、過去最高の収支差額を生み出すことができたことは、評価に値すると考えられる。年度の終盤には新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、緊張感のある法人運営を強いられることとなったが、オリμπピアのチャレンジ精神を忘れることなく取り組むことができた。これからも、「すべての人がその人らしく希望を持って輝くことができる」ノーマライゼーション社会の実現に近づけるよう、法人一丸となって努力を続けていきたい。</p>			
運営評価			
<p>1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] :本年度、高齢者事業・保育事業・社会事業の各部門の働きを一層充実させることができた。これにより「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させた。</p> <p>2. 新しい介護への転換 [小規模] :ユニットケア、グループホームケアを徹底し、入居者・利用者おひとりおひとりがこれまで通り誇りを持った暮らしを安心して続けていただくことを可能にするケアの提供を行うことができた。</p> <p>3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] :オリμπピア福祉塾講座、認知症高齢者や発達障害への理解を深めるための講演会、Salon de l'Olympiaなどを開催することにより、地域福祉の啓発に貢献した。</p> <p>4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] :日本聖公会・YMCA・大阪大学・神戸国際大学・RC行政・社会福祉協議会・医師会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげることができた。</p> <p>5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] :各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深めた。</p> <p>6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] :内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努めた。また、実習生を積極的に受け入れることにより、社会的貢献を果たすことができた。</p> <p>7. 海外との交流 [国際活動] :リンネ大学(スウェーデン)との協働によりスウェーデン研修を実施した。また香港・ベトナムなどのアジアの国々との連携を密にし、これからの世界の福祉の情勢を分析する機会を持つことができた。</p> <p>8. 健全な財政運営 [健全財政] :収入の増加、支出の見直しに取り組み、成果をあげることができた。</p>			

施設	特別養護老人ホームオリンピア	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービスの提供 2. 財政起案の確立 3. 人材確保及び育成 4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す		
総括	<p>施設入所のニーズは例年同様、待機者がいらっしゃる状況にもかかわらず、収益で結果が残せなかったのは、人材の獲得・育成に力が及ばなかった面が大きく影響している。業界全体が人材不足に陥っているとは言え、光朔会の歴史ある法人の最初の施設として培ってきた経験と実績で他に方法はなかったのかと反省している。建物の老朽化・人材不足とマイナス思考の捉え方はなく、その歴史の重みを十分に活かした地域との繋がり、法人のミッションや諸関係者との繋がりをしっかり見直し、PR方法を改善していく。法人全体がユニットケア、新しい介護にチャレンジしている。従来型特養という枠に捕らわれるのではなく、今自分たちに出来ることは何かをしっかりと見極め、最善を尽くし、理念を踏み外すことなく、今年度の厳しい学びを糧に次年度は飛躍していきたい。</p>		
事業評価	<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービスの提供:利用者の「その人らしい生活」を大切にして「有する能力」に応じた生活を送ることが出来るように支援を提供した。あんしんすこやかセンターや居宅介護支援事業所の専門職を地域に派遣し、お困りの方の支援・相談を積極的に受け入れてきた。また、通所部門と入所部門部門が一体となってサービスを提供することにより、介護疲れの軽減や体力の維持、生活の質の確保に繋がったと評価している。入所部門の待ち状況から、オリンピアに課せられたミッションの実現が今後も期待されていると思われる。</p> <p>2. 財政起案の確立 3. 人材確保及び育成:経費の削減に力を注いだものの、人材の獲得・育成に力が及ばず人材紹介や派遣職員の利用での支出が多く、収益に大きく影響した。今年度を糧に、スケールメリットを活かした求人方法で次年度は挽回していきたい。また、実習生の受入や学校・キャリアセンターとの繋がりも見直していく。</p> <p>4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す:他機関との連携、法人内の横の繋がりを利用した緊急ショート受入や虐待事例への専門職派遣や受入を実施したり、トライやるウィーク等の地域貢献事業にも携わることが出来た。</p>		
研修	<p>[内部]各委員会の研修・・・虐待防止・身体拘束廃止・感染対策・事故防止</p> <p>[外部]感染症対策研修会・看取り栄養研修・防災(備蓄食)研修・介護支援専門員従事者研修 栄養士会研修・介護士会研修・相談員研修・発達障害理解のための基礎と実践講座</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[実習]社会福祉士(大原学園・日本メディカル福祉専門学校)・介護福祉士(大原学園)・介護等体験(各関係大学の教育実習生受入)・栄養士(松蔭・武庫川女子)</p> <p>トライやるウィーク・ワークキャンプ</p>		
行事	<p>誕生日会・特養デイサービス 花見・音楽療法教室・母の日クッキング・父の日プレゼント・夏祭り・近隣保育園児との交流会(オリンピア認定こども園、ニコラス保育園、オリンピア北保育園)・デイサービス遠足・特養 デイサービス クリスマス会・お正月・初詣・デイサービス忘年会・あんしんすこやかセンター 地域ケア会議・認知症cafe・一人暮らし高齢者対象給食会・ふれあい喫茶・地域見守り連絡会 他</p>		
取得資格			

# 事業報告

2019年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	谷口 裕亮
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 健全な施設運営 4. 専門性の高い人材育成と人材確保				
事業評価					
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:施設での生活が豊かで楽しみのある時間を過ごして頂けるように心がけている。季節等の行事については、少し盛り上がり欠けているような状況も若干みられたのでスタッフに対して何が大事なのかを考えてもらい、次年度は趣向を凝らした行事を行っていく。					
2. 財政基盤の確立:退去者が多く出してしまった1年であった。インフルエンザ等の感染症も出さず、健康管理を十分に行っていたが、入院者が立て続けにあり、新規利用者が退所者に追いついていない状況であった。これまではロングショートにて3名待機をしてもらっている状況であったが、それを上回る状況で入院、退去者が合った状態。新規ショートも相当数獲得するも追いつかない状況が続いた。次年度はショートベッドを十分に有効利用し、ロングショートの待機者を5~6名獲得していく。					
3. 健全な施設運営:介護保険制度や老人福祉法等の制度の中で運営を行っており、利用者のニーズに答えられるようサービスプランを作成していく。					
4. 専門性の高い人材育成と人材の確保:研修等を実施しスタッフのスキルアップを図った。					

社会福祉法人光朔会

# 事業報告

2019年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	金谷 佐織
事業目標	1. 年間利用者数 7,826人(30.5人/日)を目指す 2. 質の高いサービス提供に努める 3. 関係各機関との連絡を密にし、オリンピアの信頼度を上げる				
事業評価					
1. 年間利用者数 7,826人(30.5人/日)を目指す:年間利用者数は 6,051人(23.5人/日)と、目標値を達成する事は出来なかった。但し、利用曜日によっては、28.8人/日に回復してきている日もあり、利用者お一人お一人への関わりを大切にしつつ、次年度に繋げていきたい。年度末にはコロナ禍の影響も有り、営業活動の自粛を求められたが、新規利用の問い合わせや体験利用の申込は途切れることなく継続しており、しっかりと次年度に繋げていきたい。新しく始めた夕食お弁当サービスも10食/週と定着し始め、保険外でのチャレンジも増やしていく。					
2. 質の高いサービス提供に努める:ケアマネジャーやご家族との連絡を密に取り、その人らしい暮らしを支援するという法人の理念に基づいたサービス提供を心掛けた。病院への入院や体調不良での欠席の際は安否確認の電話や訪問、お手紙を送る等のきめ細かい取り組みは、非常に好評であった。今後も継続し大切にしていきたい。					
3. 関係各機関との連絡を密にし、オリンピアの信頼度を上げる:歴史ある(福)光朔会の繋がり、法人内のスケールメリットを活かした横の繋がりを活用し子供達との交流会を実施したり、介護体験や実習を受け入れている。高齢者施設という社会資源一旦を担うだけでなく、地域と共に歩み続ける、チャレンジすることを大切にしていきたい。					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援 3. 地域、他事業所との連携 4. 介護支援専門員の資質向上 5. 認定調査員の資質向上				
事業評価	<p>1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間1093件、要支援者プラン件数年間148件となった。 介護支援専門員が減った事で要介護者プラン件数は減っているが担当件数上限に近付いている。</p> <p>2. 質の高い居宅介護支援:月1回は自宅訪問し、状況把握、モニタリングを行った。介護保険の枠にとらわれず、サービス調整を行っている。</p> <p>3. 地域、他事業所との連携:圏域あんしんすこやかセンターからの依頼など困難ケースも事業所と連携を図る事で対応できた。また、医療機関との連携でスムーズなサービス調整が行えた。</p> <p>4. 介護支援専門員の資質向上:研修に参加し、情報を収集し、資質向上が図れた。研修後は記録を閲覧することで事業所内での情報共有ができた。</p> <p>5. 認定調査員の資質向上:年間588件の認定調査を行った。認定調査員研修参加やe-ラーニングの活用などを行った。認定期間が利用者によって違う為、認定調査数の予想が難しくなっている。</p>				

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピア	部門	地域包括	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談のできる窓口として認知・評価される 2. 高齢者と地域をつなげ、安心して住むことのできる地域づくりを支援する				
事業評価	<p>1. 給食会や喫茶会、夏祭りやバザー、防災訓練等の地域行事へ積極的参加及び支援をした。 その際、高齢者介護相談や権利擁護などの情報発信、フレイル予防啓発等をおこなった。 また、毎月、各種事業所約130カ所を訪問し、資料配付や顔の見える関係づくりを通して、センター周知を継続した。地域ケア会議を平成30年6月、12月と平成31年2月に開催し、地域課題の抽出や認知症高齢者の理解とその支援についての意見交換をすることができた。また、宮本地区で 認知症高齢者の声かけ訓練を実施した。</p> <p>2. 各地区の民生委員やボランティアとの連絡協力をすすめ、高齢者介護に関する勉強会をおこなったり認知症キッズサポーター養成講座の開催協力をしていただいたりした。 地域支援のための神戸市の研修やケアマネジメント作成や高齢者支援を学ぶ研修に参加した。 また、困難事例や虐待防止、後任人制度理解のための勉強会を地区民児協や地区支援者とともに理解する勉強会を開催した。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア呉	部門	居宅介護支援事業所	報告者	栗田 実
事業目標	1. 事業の経営安定 2. 地域作りへの貢献				
事業評価	<p>1. 2019年1月より事業再開し、現在要介護者10名、要支援者34名の合計44名の利用者を担当している。本来であれば、要介護者を20名程度確保する予定も、引き続き要介護者の獲得には苦勞している。今年に入り、全国的にもコロナウィルスの影響で事業所への営業訪問がしにくい状況が続いているが、コロナウィルスの状況が落ち着くにつれ、ステイホームによりADL低下を来す利用者が増えていることもあり、今後の利用者の動向を注視しながら、要介護利用者を中心に引き続き、利用者の更なる獲得を急ぎ、事業の経営安定を図りたい。</p> <p>2. ここ半年ほど、毎月のように数名ずつではあるが、利用者の増加が見込めている。全国的にコロナウィルスの影響で、利用者個々の心身の状況変化が相次ぎ、各地域包括支援センター等にも新規介護相談や要介護認定区分変更の相談が相次いで入る様子。各地域包括支援センター等とも連携を密にし、新たな利用者を獲得出来る様になりたい。更に、一昨年の西日本豪雨災害等の復興など、地域における課題も多く、これらの課題に行政・各地域包括支援センター等とも連携しながら、積極的に関わり、地域作りへ貢献し、地域においてより一層貢献していけるよう、精一杯努めて参りたい。</p>				

施設	グループホームオリンピア灘	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 利用者の生活の質の向上 2. 認知症ケアの拠点としての地域交流 3. 職員の資質向上 4. 財政基盤の確立		
総括	<p>2019年度はオリンピア灘にとって、地域の認知症ケアを推進していく土台を築く1年となった。生活の主人公はご利用者であるというオリンピア灘の理念を実践し、地域ケア会議、運営推進会議等の地域会議へも参加、発信をしていくことで、オリンピア灘だけでなく地域の認知症ケアの推進を目指した。パーソンセンタードケアを基盤とした理念に基づいたケアを確立するために、各ユニットでOJT指導や新しい職員への新任研修を行い、入居者の皆様が尊厳ある普通の生活を送るための学びを実施してきた。地域との結びつきを強め、地域での認知症ケアを高めていくためにも、次年度はスタッフがそれぞれの力量にあった研修や学びが受け取れるように、個人、ユニットとしてのチームでの目標を明確にしていく。</p>		
事業評価	<p>1. 利用者の生活の質の向上: オリンピア灘の理念である、「生活の主人公は利用者ご本人」を生活の基盤としてご本人とご家族と共にケアプランを作成し、オリンピア灘へお越しいただいたからこそその目標を持った生活を送るためのお手伝いを実施してきた。夢を諦めない、夢を持った暮らしを持ち続けていきたい。</p> <p>2. 認知症ケアの拠点としての地域交流: 昨年度に続き、山口常務理事による認知症講演会を開催することができた。待つ姿勢ではなく、オリンピア灘から発信していくために地域ケア会議への参加や、認知症対応型デイサービスにより、地域で悩まれている方への一助となってきた。</p> <p>3. 職員の資質向上: OJTや新任研修の他、新たに仲間となるスタッフへ、オリンピア灘の存在意義、法人理念の重要性を説き、スタッフ全員が同じ目標に向かって行けるように協力をしている。</p> <p>4. 財政基盤の確立: 必要な修繕を行いながら、無駄を無くしていく努力を積み重ねた。収支による一定の結果を残すことができたが、更に向上していける余地がある。収支バランスを考え、発展させていきたい。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・認知症ケア・全体研修 感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・認知症講演会</p> <p>[外部] コンプライアンス研修(神戸市主催)・発達障害理解のための基礎と実践講座 神戸市介護指導課実地指導</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[見学] 居宅介護支援事業所、入居希望者の見学受け入れ・民生委員・ デイサービス体験利用の実施・オリンピア住吉による清掃</p> <p>[実習] グリーフケア研修・トライアルウィーク・ワークキャンプ</p> <p>[ボランティア] オリンピア都こども園・オリンピア北保育園・ワーフチェロカロテット・畑プロジェクト</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・ご家族懇談会・ご家族懇親会・消防設備点検・実地指導・オリンピア都 こども園、神戸北保育園交流会・Salon de l'Olympia Nada(チェロコンサート)・雛祭り イースター・ハロウィン・クリスマス(礼拝・パーティー)・節分・ライト・イット・アップブルー 外出(花見・飲食・ドライブ・初詣・沖縄・どうぶつ王国・美術館・お花見・コンサート)</p>		
取得資格			

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業評価					
<p>1. 入居者が主人公となる生活の場の構築:「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の実践から、画一的にならない入居者の思いが反映されたケアプラン作成を目指してきた。尊厳があり、ご本人にとっての普通の生活を取り戻し、日々を充実していただくお手伝いに努めた。</p> <p>2. 職員のスキルアップと育成:OJT研修や新任研修の他、法定研修を通して、制度や法令順守だけでなく、法人理念の理解、入居者の自己実現にむけたお手伝いの重要性を学んだ。今後、公募が出た際には、積極的に挑戦していく人材育成にも取り組んできた。</p> <p>3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:地域の中での拠点となることを目的として活動した1年であった。地域ケア会議への参加、山口常務理事による認知症理解のための講演会と、外へ発信していく姿勢を示すことができた。施設見学も年間を通して多くお越しいただいた。</p> <p>4. 財政基盤の確立:収支から一定の結果を出すことができた。収入、支出共に更なる改善を目指していくことを可能であるとする。本年度の積み重ねを次年度へと加速させていきたい。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	長谷 順二
事業目標	1. サービスの質の向上 2. 財政基盤の確立				
事業評価					
<p>1. サービスの質の向上:2019年度にサービスを開始した利用者の中には、以前行かれていたデイサービスでは対応が難しいとの理由で相談をいただくケースが数件あった。大規模の事業所では、対応が行き届かないことがあるかもしれない、サービスの隙間でお困りになっている方へ助けとなっていきたいことを再確認した。グループホームの共用型という世間では馴染みの薄い事業ではあるが、認知症対応型としてこれ以上の環境はないものとする。在宅での生活が中心となることを考え、利用後のご様子などをご家族から尋ね、ケアマネジャーから各サービスでの情報をいただき、デイサービスを利用することで在宅での生活が円滑になることを目指した。今後は、利用中にご本人が実現していけることを増やしていくようなお手伝いをさせていただきたい。</p> <p>2. 財政基盤の確立:定員が1日3名だけであり、数字として大きく積み重ねることは難しいが、一定の収入確保が可能であり、本体であるグループホームを数字の面からも支えることができている。昨年度は、デイサービスからグループホームへのご入居はなかったが、法人内の特養ショート部門へ繋ぐことができた。法人内各部の協力も得ることができ、ご利用者を提供していくという目に見えない貢献も行うことができている。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
総括	<p>2004年8月にオープンしたオリンピア兵庫は、2019年度、15周年を迎えた。地域の高齢化の進行、他事業所との競争の激化など、取り巻く環境は大きく変化を遂げたが、開設時の理念を忘れることなく、地域に根ざした施設として運営を続けていくことができたことは、評価できると考える。今年度も、毎年恒例の沖縄等への旅行を成功させたほか、Salon de l'Olympiaや「夜カフェ」などのイベントには地域の方々に数多くお越しいただき、オリンピア兵庫のアイデンティティを再確認することができた。また、研究機関や民間企業との協働プロジェクトを立ち上げたことは、今後の地域包括ケアシステムの展開の中で、オリンピア兵庫が重要な役割を担うことに繋がるであろう。アクションが人と人を繋ぎ、地域を動かしていくことができるよう、さらにチャレンジを続けていきたい。</p>		
事業評価	<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立：GH・SS・DS・HHの4部門が力を合わせるにより「通えて泊まれて家にも来てくれて、いざとなったら住むことができる」場として、その人らしい住み慣れた地域での生活を支えることに寄与した。</p> <p>2. 広報活動の強化：ホームページ、Facebook等を用いた従来の広報活動に加え、スタッフが自主的に連携し、ポスティング活動を展開するなど、ひとりひとりの持つ発信力を強化することができた。</p> <p>3. 財政基盤の確立：介護報酬改定による収入減に加え建物や備品の大規模な修繕等の支出増により、各部門とも苦戦を強いられる一年となったが、収入の改善および支出の見直しを実施し、次年度への備えができた。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦：大阪大学大学院との介護とテクノロジーに関する共同研究、インフォコム(株)への新商品開発協力など、外部団体との協働により、新たなチャレンジに向けてスタートを切ることができた。</p> <p>5. 人材の育成：従来の人材育成の取り組みに加え、スタッフによる自主的な勉強会の開催や、リーダークラスのスタッフの内部研修講師への登用など、新たな人材育成のステージに進むことができた年度であった。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束防止・緊急時・災害時対応・パーソンセンタードケア・スウェーデン研修</p> <p>[外部] 食中毒・感染症予防講習会・ケアカフェ・ハートネット地域会議・ほっとかへんネット・T-ライン研修会・発達障害理解のための基礎と実践講座・在宅医療スキルアップセミナー・法令遵守</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[見学] 播磨福祉専門学校(27)・薫化舎(10)・大阪大学大学院(3)[実習] スウェーデンリンネ大 学(4)・介護等体験(70)・兵庫県新入職員(12)・社会福祉士(1)上智大学グリーンケア(4)・障害 者職場実習(1)・神戸リハビリテーション専門学校(10)トライやるウィーク(須佐野中学校2・吉田中 学校2)ワークキャンプ(1)・インターン(2)・ミカエル兵庫幼稚園(40)・フィンランド公認サンタクロース</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・花見・LIGHT IT UPBLUE・ご家族懇談会・スペシャルオリンピックスふれ あい祭り・クリスマス礼拝・お餅つき・夜 Cafe・宝塚歌劇・豆まき・あぐろの湯・フットサル大会・相楽園 笠松商店街ふれあい祭り・ルミナリエ・Thanks神戸・おきなわ・動物王国・しあわせの村・舞子公園 花火鑑賞・離宮公園・淡路島日帰り旅行・初詣・Salon de l'Olympia・森林植物園 他</p>		
取得資格	介護福祉士(2) 介護職員初任者研修(3)		



## 事業報告

2019年度

施設	オリンピック兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1. ケア理念の遵守 2. 地域に密着した運営を行う 3. スタッフの資質向上				
事業評価					
<p>1. ケア理念の遵守: パーソンセンタードケアの考えを基本とし、18名お一人お一人に合った生活を追求し、ケアにあたった。入退所も多かった中“ご利用者の理解”に努め、18名それぞれのスタイルで生活を送っていた。また、ご利用者個々の身体的変化や精神的な変化を受け入れ、その時々のご本人を理解し、ケアにあたった。</p>					
<p>2. 地域に密着した運営を行う: 運営推進会議については、地域の方、入居者、ご家族と新たな参加者が増えた。オリンピック兵庫として、Salon del' Olympiaや夜cafeを実施、笠松ふれあい祭りへの出店、参加することで地域と交流する機会を持つ事が出来た。</p>					
<p>3. スタッフの資質向上: 研修の機会や会議への参加によって、スタッフのモチベーションの向上に繋がった。スタッフの定着率が上がった事で、派遣スタッフがゼロとなった。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ショートステイ	報告者	尾崎 真
事業目標	1. ショートステイの役割について 2. 稼働率の安定 3. 魅力ある職場環境づくり				
事業評価					
<p>1. 介護でお困りのご家庭に関しては緊急ショートを受け入れをはじめとして他施設では利用困難とされた方々の積極的な受け入れを行った。また新型コロナウイルスにより国難とも言われる状況下でも変わらず新規受け入れを行ったことに対してご家族からは多大なる感謝のお言葉を頂くことが出来た。そのような状況でも介護施設として出来ることを考え行動したことは今後も継続させていく。</p>					
<p>2. 稼働率に関しては5年連続で年間稼働率の更新を果たしている。これに関してはご家族だけではなくケアマネジャーの方々にも信頼を得ることが出来た結果と感じている。今後も法人が掲げる理念と3つの約束はもとより部門でも掲げる目標、ユニットビジョンを個々のスタッフが実践できる環境を保つことでより良いサービスを継続させていきたい。</p>					
<p>3. 労働環境の見直し、スタッフの資質向上に関しては年度の終わり頃から充実させることが出来た。人員を定着させることであらゆる面でゆとりが確保され内部研修の実施にも結び付けることが出来た。ただ、それに関しては今後も継続させる必要があるので常に目を配り、備えるよう心掛ける。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピア兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化 4. 新たな保険外事業への挑戦				
事業評価					
<p>1. 2019年度は前半に長期入院の解消や新規受入等によって予算ベースの状況に回復することが出来たが、最終四半期に入ってから入院者の増加に加えて、新型コロナウイルス感染症による影響から新規利用者の動きが停滞するようになり、積み増すまでには至らなかった。</p> <p>2. 地域密着型として運営推進会議の開催等によって地域との密着を行っている。加えて、地域向けのイベントにもデイ利用者が参加する等、地域との一体的な運用については、達成することが出来たと評価している。</p> <p>3. 派遣雇用を解消し、すべてを直接雇用に切り替え、安定した人員運用に移行していた。しかし、年末にパート1名が腰痛による歩行困難で長欠、もう1名が結婚による転居退職でスタッフの半数を失うこととなった。その後アルバイト対応を含めて、欠員補充を行い人数的な充足に至っている。</p> <p>4. 初任者研修事業を実施したが、収益事業として確立するに至っていない。法人内部のスタッフスキルアップに加え他事業者との連携による試験的な運用が成功し、今後の安定した事業展開への足掛かりが出来た。</p> <p>以上</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業評価					
<p>1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践：サービス提供の場面において、一つひとつのケアが細切れになってしまうのではなく、ヘルパー間はもちろん、訪問看護や施設系のサービス事業者とも連携を図り切れ目なくケアを提供することができる環境が整ってきた。在宅での看取りのケースも増えている。</p> <p>2. 他部門との連携強化：オリンピアのヘルパー・デイ・ショートを一体的にご利用される方は増加傾向にある。どこに居ても顔なじみのスタッフが対応できるというメリットを活かし、小規模多機能のようなケアの提供を強化していきたい。</p> <p>3. ヘルパーの養成：新しい体制となり、ヘルパー一人ひとりが受け持つ件数も増え、内容もより専門的なケース(身体的・精神的に重度の方・看取りの対応等)が増えている傾向にある。チームで取り組む事を念頭に、都度話し合いや情報のやりとりをしながら成長できる環境を維持していきたい。</p> <p>4. 保険外サービスの具体化：保険外の需要としては、通院の院内付き添いがほとんどだった。旅行等ニーズはあるものの、費用面、体制面の課題が多く、実現のための方策をとることができなかった。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. 新規利用者の獲得 5. 利用者、家族の尊重				
事業評価	<p>1. 財政基盤の確立:2019年度の収支差額でプラスを達成し、法人の財政基盤の確立に貢献することができた。</p> <p>2. 地域、他事業所との連携強化:あんしんすこやかセンター、ケアマネジャー連絡会主催の会合に出席するなどして、他事業所の職員との情報交換を積極的に行い、連携強化に努めることができた。</p> <p>3. ケアマネジャーとしての資質向上:関係機関主催の研修会、勉強会に積極的に参加し、新たな知識を獲得することができた。また、法人内のケアマネジャーとも情報共有を行った。</p> <p>4. 新規利用者の獲得:要介護、要支援の利用者をできる限り、受け入れるようにした。担当の件数を昨年度末より増加させることができています。</p> <p>5. 利用者、家族の尊重:毎月の訪問や電話でのモニタリングの際に利用者・家族の要望を聞き取り、できる限り、その要望を実現するように務めた。また、傾聴の姿勢を常に意識して、利用者、家族との面談を実施させていただいた。</p>				

施設	オリンピア都こども園	報告者	園長 三好 美佐子
事業目標	1. オリンピアの理念・都こども園の理念、理解の徹底 2. 認定こども園教育・保育の充実 3. 地域子育て支援の充実 4. 教育・保育専門職としての資質向上 5. 関係団体との連携 6. 次世代育成		
総括			
<p>2019年度は幼保連携型認定こども園として、教育・保育の内容を見直し、さらに充実させることができた。</p> <p>職員一人ひとりが子ども理解、養護と教育が一体となった子どもへの関わり、子どもが主体的に生活し遊び込める環境作りができていたことは評価できる。また、保護者の園に対するニーズ、子育ての考え方は年々様変わりしており、それに応えられる職員の力量が問われる一年でもあった。クラス担任だけでなくチームとして対応していく大切さを職員は学ぶことができたと思う。年度の終わりに新型コロナウイルス感染症による影響が日々の保育にもあらわれ、いち早く感染症対策をおこなうと共に、保護者に向けて取組を発信できたことは、安心安全の上に保育が成り立っていることを保護者に理解していただき安心感を与えることができたと思う。</p>			
事業評価			
<p>1. 幼保連携型認定こども園としての事業展開：認定こども園への1号認定号、2・3号認定ともに入園希望者が多く、オリンピア都こども園の教育・保育を評価いただけていると感じた。</p> <p>2. 認定こども園の教育・保育内容の充実：愛着形成の大切な時期である0歳児の保育室環境、生活の流れ、保育者の関わりを見直すことにより、のびのびと0歳児が表現し生活できるようになった。0歳児保育は基本であり、全ての年齢に通じるていねいな保育につながっていている。</p> <p>3. 地域子育て支援の充実：一時保育利用の延べ人数は前年度を下回ったが、難しいニーズにスピード感をもって対応できた。育てサロンOlympiaをはじめ体験保育、講座などの延べ利用者数は前年度を上回った。</p> <p>4. 教育・保育専門職としての資質向上：キャリアアップ研修受講者が増え、処遇改善の充実が図られた。</p> <p>5. 関係団体との連携：キリスト教保育連盟、聖公会保育連盟の研修・大会等に積極的に参画し理解を深めた。</p> <p>6. 次世代育成：実習生等の受け入れをていねいにことにより、実習生から1名が保育教諭として入職する。</p>			
研修	[内部]認定こども園教育・保育要領の理解・実践、保健衛生・管理研修、事例研究会、オリンピアの理念理解、接遇マナー [外部]キャリアアップ講習、新任職員研修、アレルギー対応、食育研修、乳児保育、保護者支援、統合保育理解、感染症対応、リスクマネジメント研修、保育教育要領改訂 キリスト教保育連盟大会、聖公会保育連盟大会		
見学・実習 ボランティア	[実習]神戸松蔭女子学院大学管理栄養学科(2)、神戸女子短期大学栄養学部(2) 神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科(1)、頌栄短期大学(2)・海星女子学院大学(2) ワークキャンプ(中学生2、高校生6)、トライやるウィーク(4中学校10、親和中学校16) [見学]入園希望親子・一時保育利用希望親子等見学者多数 就職希望者見学(6)		
行事	進級式・入園式・礼拝(毎週水曜日合同礼拝、イースター、ペンテコステ、花の日、収穫感謝、クリスマス)・健康診断(内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査)・同園会(2回)・七夕のつどい・プールあそび・お泊り保育・タベのつどい・ぶどう狩り・グランパママのつどい・運動会・芋ほり・ハロウィン・生活発表会・クラス懇談会・卒園式・園外活動・クッキング活動 他		
取得資格			

施設	オリンピック神戸北保育園	報告者	園長 村上 徳光
事業目標	1. 健全財政の安定化 2. 保育所保育指針改定への対応(一人ひとりの個性を尊重し大切に保育の充実) 3. 幼児教育・保育無償化への対応 4. 保育の質を高めるために職員の専門性のさらなる向上		
総括			
<p>平成29年度の保育所保育指針の改定により、保育所保育においても子どもが安心・安定した生活が送れるようにする「養護」とともに、人格形成の基礎を培う「教育」を一体的に行うことが強調されています。私どもは4年前からそのことに取り組み、キリスト教保育を基盤として、子どもの情緒を安定させ、子どもの主体を大切にする保育を進めてきました。子ども自身が興味を持ち、自らつかもうとする気持ちを受け止め、環境を構成し援助するという役割が果たせてきたのではないかと考えている。財政面については、事業収支差が2015年度3,187万円、2016年度2,443万円、2017年度2,285万円、2018年度2,188万円、2019年度1,600万円と5年間で収支差は減ったが、5年間で職員の処遇を大幅に改善してきた中では、まずまずであった。</p>			
事業評価			
<p>1. 健全財政の安定化:当初予算収入16,472万円、支出14,896万円、収支差1,576万円で補正後収入17,700万円、支出15,611万円、収支差1,737万円となり、最終実算が収入17,480万円、支出15,943万円収支差1,536万円となり補正予算より賞与積立金の関係で若干下回ることになってしまった。</p> <p>2. 保育所保育指針改定への対応(一人ひとりの個性を尊重し大切に保育の充実):保育の充実のため、保育士のスキルアップ研修も当然であるが、子どもが遊びこめる環境づくりのために子どもが興味をもっている遊びに応じた、おもちゃや素材などを時期時期にあわせて整える等工夫をこらした。</p> <p>3. 幼児教育・保育無償化への対応:ICTの補助金を活用し、次年度より保護者への請求等を簡略化を図る。</p> <p>4. 保育の質を高めるために職員の専門性のさらなる向上:職員の専門性の向上のため、外部から講師を招き内部研修を複数回実施をした。育児担当制の学び、そして、その学びを具体的な保育現場のビデオをとおして、より詳細な担当制の学びをした。</p>			
研修	<p>[内部]新入職員研修・新入職員OJT・危機管理研修・人権研修・キリスト教保育について・育児担当制研修会</p> <p>[外部] 社会福祉の改正について・児童相談所と保育園の連携・新制度施行の現状</p> <p>クレーム対応・保健師と保育園との連携・専門性のある保育士講座・特定給食施設研修会・食育フェア</p> <p>障がい児保育・保育内容研修会・子どもの主体を大切にする保育研修・キリスト教保育・育児担当制研究会</p>		
見学・実習	<p>[実習] 親和女子大学(1)</p> <p>[ボランティア] 福祉体験学習(ワークキャンプ) 北神戸中学校(6)・神戸常盤女子高校(1)</p> <p>トライやる・ウィーク (北神戸中学校5・大沢中学校1)</p>		
行事	<p>入園式・進級式・お誕生会・イースター礼拝・家族の日礼拝・花の日礼拝・お泊りキャンプ</p> <p>乳幼児保育参観・敬老の日の集い・運動会・ブドウ狩り・保育園バザー・子育て支援センター体験保育</p> <p>収穫感謝祭(ハロウィン)・クリスマス会・お餅つき・私保連よいこの集い・大きくなったよの集い・お別れパーティー</p> <p>卒園式</p>		
取得資格			

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西	報告者	施設長 櫻井 敬介
事業目標	1. 総合的な福祉活動の展開 2. 財政基盤の確立 3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ 4. 小規模多機能ケアの確立 5. 人材育成による資質の向上		
総括	<p>オリンピア神戸西も多くの方の祈りと支えにより、10年目を終えることが出来た。評価出来る点としては、人材確保が厳しい昨今、地域との独自の繋がりを生かし、リファラル採用や新しい求人方法を展開することで派遣スタッフや紹介会社に頼ることなく、スタッフ増員に積極的に取り組むことが出来た。その取り組みから、法人内の他施設への応援への一部を担えた。また、多くのボランティアに来て頂き、地域との共生を実践することができた。</p> <p>逆に苦戦を強いられ、今後、改善していくべき点としては、小規模多機能ホーム利用者獲得である。過去にとらわれず新しい方法を見出し、地域の皆様が住み慣れた地域でいつまでも生活できる為のお手伝いができる施設として皆様に必要とされるオリンピア神戸西になるよう更なる成長を目指し、新たな挑戦を行っていく。</p>		
事業評価	<p>1. 総合的な福祉活動の展開: 特別養護老人ホームの入所部門、小規模多機能ホームの通所部門、居宅介護支援事業所の在宅部門で連携をとりつつ、今まで積み重ねてきた地域との関係を生かし、高齢者の介護相談の拠点を担いつつ、高齢者料理教室や親子料理教室、自治会との防災訓練からクリーン作戦(大掃除)まで、積極的な活動を実施してきた。特養の年間稼働率は99.4%。また、法人の他施設へ1名、職員を送り出した。</p> <p>2. 財政基盤の確立: 事業活動資金収支差額は昨年度の8,095(千円)に対して、13,476(千円)と回復した。収入はほぼ予算通りであり、かつ業務委託費の削減が要因であったと考えられる。</p> <p>3. 光朔会と地域との架け橋を担い、理念に基づいた実践と新たなチャレンジ: 地域の公民館への出展や講師の派遣による地域貢献を継続している。4. 小規模多機能ケアの確立: 利用者お一人お一人に対して、施設ケアで完結するのではなく、馴染みの環境・住み慣れた地域の中での生活の継続支援を行うことが出来た。</p> <p>5. 人材育成による資質の向上: 法人内の他施設へ応援要員として職員を送ることが出来た。</p>		
研修	<p>[内部] 新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・若手リーダー育成研修・高齢者虐待防止・身体拘束撤廃研修</p> <p>[外部] 介護支援専門員従事者研修・喀痰・吸引研修・栄養士会研修・介護士会研修・相談員会研修・LD理解のための基礎と実践講座</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>兵庫県立明石西高等学校 ボランティア同好会(3)・神戸須磨の浦女子高等学校(3)・神戸市立玉津中学校(3)・神戸市立高津橋小学校(4)・神戸栄光教会(3)・明石聖マリア・マグダレン教会(6) 傾聴ボラテンフラワー(10)・神戸邦楽クラブ(6)・園芸倶楽部(6)・たまみ会(3)・神戸市社会福祉協議会ワークキャンプ(3)・牧羊幼稚園の園児との交流会(30)・野菜収穫体験(6)</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・花見・音楽療法教室・BBQ・健康野菜市・母の日クッキング・父の日プレゼント・音楽教室コンサート・ご家族懇談会・ドライブ・お茶会・映画鑑賞・美術館の芸術鑑賞・玉津南公民館給食会・お話しべちゃえ・高齢者料理教室・ふれあい祭り 健康チェックコーナー・クリーン作戦・防災訓練・盆踊り大会・利用者の希望を実現(神戸どうぶつ王国・淡路島観光) 他</p>		
取得資格	小規模多機能・計画作成担当者(1)、社会福祉士(1)		

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能	報告者	平山 陽三
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの確保と資質向上 4. 地域の拠点作り				
事業評価					
<p>1. その人らしい暮らしの実現:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援する事に力を入れてきた。今年度も訪問に力を入れ利用者・家族の希望される生活の実現を目指した。年間を通して人材不足が続いたが、淡路島やハーバーランド等への外出へ行くことができた。利用者の希望に応じ、近隣の公園までお散歩に出掛けたり、理美容の付き添い、お出掛けの送迎・付き添い等、受診の付き添い、買い物付き添い等、その人らしい暮らしの実現の支援を積極的に取り組んだ。</p> <p>2. 財政基盤の確立:登録27名からのスタートであったが、夏前頃から利用終了が続き利用数が落ち、最終的には26名で終えた。年間収入79,797(千円)、予算に対し94.2%の達成率。次年度は回復を目指す。</p> <p>3. スタッフの確保と資質向上:3月に辞めたCMの後任がギリギリ5月に見つかった。その後も退職と入職が目まぐるしく続いた。そんな中、研修等を定期的にしっか行いスタッフの資質向上に努めることができた。</p> <p>4. 地域の拠点作り:音楽教室、ヨガ教室、野菜市、体操教室等の一般参加型プログラムや緊急宿泊を実施し、高齢者が気軽に足を運べる環境と困った時に寄り添える環境を準備し、拠点を担えるようにチャレンジしている。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	横山 佳史
事業目標	1. オリンピアの理念の遵守 2. 地域共生 3. 人材育成とスタッフ定着率向上を図る 4. 健全な財政基盤の確立				
事業評価					
<p>1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える:オリンピックの理念のもと、入居者の方と生活を共にすることで入居者皆様の気持ちや要望、体調の変化等に対して、気付き、寄り添うことができるようになってきたと思われる。入居者のご家族より感謝の言葉を頂戴したこともあった。オリンピックのケアがユニットに浸透し、入居者、ご家族の皆様に伝わりつつあることを実感している。</p> <p>2. 地域共生:特養入居者や職員が地域の行事に参加する機会は多く、また、積極的にボランティア受け入れを行っている。その結果、地域との相互交流も定着し、地域の一員として受け入れられていると感じている。</p> <p>3. 人材育成とスタッフの定着を図る:介護福祉士所持者や喀痰吸引研修修了者が増えてきている。また、毎月、委員会や勉強会を行うことで職員の意識は高まっている。今後もスタッフの定着、質の向上に尽力する。</p> <p>4. 健全な財政基盤の確立:今年度の収益は予算に対してプラス2.8ポイントと達成することができた。また、年間稼働率99.4%と3年連続高水準の稼働率を記録できたことは評価できる。活動費用も前年度より抑えることができた。健全な運営が行えていると思われる。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック明石	部門	介護支援事業所	報告者	富松 晃子
事業目標	1. 在宅支援を各部と連携して行う 2. 地域の相談窓口としての役割を担う 3. 居宅介護支援の資質の向上と人材育成 4. 財政の安定				
事業評価	<p>1. 在宅支援を各部門と連携して行う:緊急時の受け入れや施設入所の受け入れなど法人内の繋がりで の協力もあり、ご本人様・ご家族様にも不安なく対応することが出来た。</p> <p>2. 地域の相談窓口としての役割を担う:給食会やふれあい会等の地域行事に出向き、住民の方と交流 する機会を作ることで、問い合わせや相談について迅速に対応することが出来、実績に繋げることが出来 きた。</p> <p>3. 居宅介護支援の資質の向上と人材の育成:明石市・神戸市のケアマネ研修会には出来るだけ参加する ように心掛け、資質の向上に努めました。1名の退職者がありましたが、今後は職員間での協調・共有できる 環境作り、社会人としての判断・行動が出来るようにしていきたい。</p> <p>4. 財政の安定:常勤2名体制時は執行率は達成していたが、1名の退職により対応出来る件数の調整で収入 が減額したが、他職員の協力も有り年度末までなんとか維持は出来た。今後は職員体制を確保し、安定した稼 働率を確保する。</p>				



施設	オリンピア都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ) 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上		
総括			
<p>オリンピアの理念を軸とした行動を全職員がとれるように、毎日全員で確認した。そして、利用者ひとりひとりが安心して過ごせる場の提供に努めることができた。児童館行事では一般来館児童と放課後児童クラブの児童と一緒に活動できたことは良かった。また、児童館と六甲コーナーそれぞれの環境的特性を活かした過ごし方ができた。</p> <p>また、ひとりひとりの個性を職員が把握し、寄り添うことで保護者の安心に繋げていった。</p> <p>コミュニティ事業では、地域の方の協力が大きく、地域の方も子どもたちとの関わりに喜びを感じてくださった。</p> <p>職員間の情報の共有、報・連・相が確実な仕事の基本であることを伝え続けた。新型コロナウイルスの感染拡大予防のため児童館利用に制限がかかり、児童館運営にも支障をきたしたことは残念である。</p>			
事業評価			
<p>1. 行事プログラムに関しては、異年齢児や地域の方と交流できるよう配慮し、集団モラルを学べるように職員の共通意識のもと、遊びの提供ができた。また、集団の中の「個」を尊重した支援ができたと思う。</p> <p>2. 親子館事業の各プログラムを通して、母親の仲間づくり、居場所づくりに配慮し、子育ての悩みを抱え込まないように母親とのコミュニケーションを職員全体で大切にできた。</p> <p>3. 保護者が安心できるよう配慮し、規律を守る大切さに目を向けた支援に努めた。また、児童館行事への参加を通して色々な児童と交流する中でも、協力・寛容ということを意識づけた。更に学年に応じた自立につなげたい。</p> <p>4. 地域の方が楽しめるよう、年間を通してプログラムを実施し、利用しやすい場の提供をすることができた。高齢者施設への積極的訪問や、児童館での子どもたちの様子を知っていただく写真展を初めて実施した。</p> <p>5. 日々の活動を通して気づきや、振り返りを大切にできた。ひとりひとりがこれでよしと満足することなく次年度更なる成長ができるようにする。全職員のチームワークで成り立つこともそれぞれが念頭におけるようにしていく。</p>			
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館長研修 ・コーナー長研修 ・指導員研修 ・放課後児童クラブ支援員研修</li> <li>・キッズサポートスタッフ研修 ・専門相談研修</li> <li>・防犯対策職員研修 ・火災訓練事前職員研修</li> </ul>		
見学・実習 ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トライやるウィーク(中学生3名)</li> <li>・ワークキャンプ(高校生6名)</li> </ul>		
行事	<p>すこやかクラブ・なかよしプログラム・なかよしひろば(赤ちゃんタイム・1歳児タイム・ママのリフレッシュタイム 子育てママのティータイム・ママのホットタイム)・学童お誕生日会・学童合同行事 月行事(お菓子作り 工作など)・灘区児童館合同行事(2回)・子どもフェスタ・集中学習会・コミュニティ事業(夏まつり・ 敬老の集い・都作品展・写真展・餅つきと昔遊び) 新型コロナウイルスの影響でひなまつり会と輪投げ大会は中止</p>		
取得資格	放課後児童支援員(2)		

施設	障害福祉サービス部門	報告者	センター長 細田 尚誉
事業目標	1. 利用者支援の向上 2. 職員の質の向上 3. 地域での障害者支援の啓発 4. 部門間、法人内での連携		
総括	<p>2019年度は生活介護事業所を含め障害部門4事業所を1年間通して取り組んだことで、連携を図るにあたり多くの課題が浮き彫りになり改善すべき点の発見や今後の方向性を考えるに至る機会となった。</p> <p>契約利用者数は各事業所ごとでも増加にあり生活介護以外は定員にまで満たされており、日々の支援によって利用日数の増加を課題として取り組んでいる。また、継続して見学・体験希望者の連絡も頂ける様になっている。作業収益の大きな増益は出来ずにはいるが、就労支援費との差は減少傾向に向き始めている。</p> <p>より一層の利用者様に対しての支援が出来るように職員が多種多様な研修に積極的に取り組み、利用者様のひとりひとりの持てる力を最大限に引き出せるよう取り組める障害部門でありたい。</p>		
事業評価	<p>1. 利用者支援の向上: 障害部門の事業所の多様化を最大限に利用し、利用者様のニーズに対して柔軟な対応を取り組めるように部門間での情報の共有をとることで、併用や移行による全体として利用契約の増加が出来た。契約後利用が遠のいている利用者様に対しても定期的な連絡をし、継続の有無の確認も明確に出来た。</p> <p>2. 職員の質の向上: 年度間を通して職員・パートの異動が多く定着した支援は出来ていなかったように思う。異動の多い中であつても細かく利用者様と接するに当たっては各事業所ごとでは、細かな相談対応が出来ていたようで利用者様に対して大きなストレスを与えることなく支援活動が取り組んでいた。</p> <p>3. 地域での障害者支援の啓発: 地域との連携や周知に対しては積極的に各事業所単位で取り組んでいたが、啓発活動ということに関しては大きな結果をもたらす事とはなっていない。</p> <p>4. 部門間、法人内での連携: 人員、作業、情報と連携を図る事が出来ることは多くあるが、全体を見ずに現場レベルで解決を図ることが大きく一体感という点でまだまだ取り組み直す必要がある。</p>		
研修	<p>[外部]精神障害者地域移行・地域定着推進事業関連研修・就労支援ネットワーク会議 就業支援基礎研修・虐待対応力向上研修・日本生命財団創立40周年『「超短時間」という新しい働き方』・障害者虐待防止研修会</p> <p>[内部]障害者虐待防止法研修</p>		
見学・実習	<p>[見学]スウェーデンリンネ大学・音楽会ワークセンター岩屋・東部就労推進支援センター・なだ障害者地域生活支援センター</p>		
ボランティア	<p>[実習]神戸市立鷹匠中学校トライやるウィーク・神戸市立上野中学校トライやるウィーク・青陽東養護学校2年生、3年生実習・友生支援学校・青陽東養護学校</p>		
行事	<p>山口洋子会長記念式・就労・作業部会(月1回)・お楽しみ会(月1回) light it up blue世界自閉症啓発デー・インターナショナルキッズディ・篠山農作業・安國菜園農作業 HUG+展・スペオリふれあい夏祭り・敏馬神社夏祭・淡河農作業・事業所紹介フェア・チャリティーバザー・YMCAバザー・たき火カフェ・シブレ里山農作業・酒心館 蔵開き・せいようフェスティバル 他</p>		
取得資格			

施設	オリンピック岩屋	部門	就労継続支援B型	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 就労移行支援 2. 地域交流による障害者支援の啓発 3. 職員の質の向上				
事業評価					
<p>1. 就労移行支援: 就労継続支援A型や就労移行支援、就職に対しての意識を持ちながらも体調面と精神面の両方が安定するタイミングを図ることが非常に難しく、1年を通して3名のA型移行と1名の就職という結果となった。個々の支援計画に沿って一人一人のカリキュラムを取り組むことも、現事業所内の軽作業や農作業を行うにあたり、さらに就労の機会に繋げていけるかを想定し考える機会となった。</p> <p>2. 地域交流による障害者支援の啓発: 地域への行事参加は継続したお声掛けをいただいているが、関わりを持っていただいている方々は限られており、周知強化の点においての課題が残る結果となった。只、関連事業所や地区長関係の方々とは話す機会も増え、少しでも多くの参加可能なイベントの提案や地域企業への紹介など協力的に連携の機会を頂くことに繋がっている。</p> <p>3. 職員の質の向上: 職員の入れ替わりがあり、定着した職員教育の実施は今後の課題である。その中でも長期間継続されているパート職員の協力もあり、利用者様への支援内容の引き継ぎや環境による変化を最小限に抑える事が出来、利用者様に大きなストレスを与えることなく支援する事が出来た。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック住吉	部門	就労継続支援B型	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 利用者支援の向上 2. 新規メンバーの獲得と既存メンバーの出席率向上 3. 法人内連携による作業強化 4. 地域のネットワーク構築				
事業評価					
<p>1. 利用者支援の向上: 障害者合同面接会への参加もなかったが、採用とならなかった利用者様の利用日数が減るなど課題も見つかった。法人内の清掃作業など職員の引率なしでも取り組めるなど、利用者様自身が積極的に取り組む意欲を持てる環境を展開す事が出来た。超短時間就労も法人内で行えた。</p> <p>2. 新規メンバーの獲得と既存メンバーの出席率向上: 2020年3月終了時の契約利用者数は定員20名に対し23名の実働利用者である。継続して契約登録者数は定員を上回っているものの、日々の平均利用者数は17名を前後するに止まりまだ向上の余地がある。昨年度に比べると平均数は上がっているのも、障害部門内での併用もあり、契約利用者様に対して事業所の選択を増やすことも出来ているように考えられる。</p> <p>3. 法人内連携による作業強化: 軽作業の工程の細分化による連携を目指してはいたが、現状としては受注作業の量によつての連携が多く取ることとなった。農作業に関しては希望者が積極的に参加する形ではあったが、障害部門での協力体制を取りながら取り組む事が出来た。</p> <p>4. 地域のネットワーク構築: e☆pro、f☆pro、しごと部会など積極的に参加する事が出来た。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピック長峰	部門	包括型グループホーム	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 入居者支援の向上 2. 地域のネットワーク構築 3. 体験部屋(ショートステイ)の設置				
事業評価					
<p>1. 入居者支援の向上: サテライトの閉鎖を行ったが、本体の室数を1つ増やすことで現在6室満室の状態である。生活支援員、世話人の支援の範囲の明確化がないまま取り組んできたが、利用者様には細かな相談支援と日々の関りの中大きな問題が起こることなく取り組めた。慢心することなく、今後の支援に当たり支援内容の明確な細分化と個々の自立支援に必要な支援内容の必要性を多く感じました。</p> <p>2. 地域のネットワーク構築: グループホームとして前法人時代から環境として近隣の方々からの理解もあり、利用者様への挨拶など日々の生活の上での声掛けも多くいただき、周知して頂いている。地域の行事への参加は利用者様のご予定もあり、なかなか継続して参加する事が出来なかった。関連事業所との連携は個々の利用者様ごとに取り扱っており、日中活動の事業所も含め連携できている。</p> <p>3. 体験部屋(ショートステイ)の設置: 現在1室は体験利用者受け入れのためにあるが、継続して入居希望の連絡があることも鑑み満室状態で入居の受け入れは出来ないがショートステイとしての受け入れ態勢を整え、今後の入居者の確保を常に考えた態勢を整えていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業報告

2019年度

施設	オリンピック住吉東	部門	障害者生活介護	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 新規利用者の獲得 2. 利用者支援の向上 3. 法人内での支援体制の連携と強化 4. 地域・福祉事業所とのネットワークの連携				
事業評価					
<p>1. 新規利用者の獲得: 2020年3月終了時点で契約利用者数は10名となっている。生活介護という特性もあり平均利用者数は3、4名と契約利用者数から見るとなかなか安定していない。利用者様の特性も踏まえ、多人数の環境が苦手な方のことも想定して、現環境を考慮したうえで障害部門内での利用者様にとっての最大限の支援が出来る事業所内移行を取り組んで行く必要を考えるに至った。</p> <p>2. 利用者支援の向上: 日々の利用者様への取り組みの記録から職員内では問題点の共有や支援方法の統一を取り組む事が出来始めてはいたが、利用者様個々の障害による差を事業所という同一環境で取り組むに至ってご家族の求めるものとのすり合わせに関しては想定以上の時間を要する必要がある改善の余地がある。</p> <p>3. 法人内での支援体制の連携と強化: 区分による利用不可な利用者様については障害部門内での連携により利用環境が整うまで利用可能な事業所での契約など協力の取れる環境を作ることができた。</p> <p>4. 地域・福祉事業所とのネットワークの連携: 地域の部会などへの参加は積極的に取り組む事が出来たが、創作活動などの新しいプログラムの充実にまでは至る事が出来なかった。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	施設長 前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 各種講演会やイベント開催 4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す		
総括			
<p>サービス付き高齢者向け住宅部門では、長年生活されていた方のご逝去が重なり、最大で5室の空き室が発生する事態となることもあったが、早期に埋めることが出来た。年度末には新型コロナウイルスが蔓延する前のタイミングで満室にすることが出来、暫くは安定した運営を継続出来る見込みがたった。</p> <p>新しい入居者にデイサービス、ヘルパーのサービスをスムーズに使う流れも確立し、収益を増加させることが出来た。また、通院介助や買い物代行といった住宅の自費サービスを積極的に受けて対応していることで、収入も増加させることが出来た。</p>			
事業評価			
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:お一人おひとりの事情に合わせて、しっかり寄り添えるケアの実践に取り組んだ。「快適な暮らしが出来ている」との評価を多く頂けている。</p> <p>2. 財政基盤の確立:ご逝去が重なり、一時5室の空きが出来てしまうこともあったが、早期に埋めることが出来、年度末からは満室で安定した運営状態に出来た。デイサービス、ヘルパーの利用量も増加し、収入を確保する基盤が出来た。</p> <p>3. 各種講演会やイベント開催:外食イベントはとても好評であった。年度末は新型コロナウイルスの影響によって外出自粛の為、実施が出来なくなったが、デイサービスでは時折、お寿司を買ってきて提供する等、喜んで頂ける企画を実施した。</p> <p>4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:入居者の方が不自由されず、快適な生活が出来る様に、日々環境整備に取り組んだ。</p>			
研修	施設内虐待防止研修等		
見学・実習 ボランティア	トライやるウィーク受け入れ フラダンス		
行事	運営懇談会、フラダンス鑑賞、外食イベント 毎週土日カフェオープン		
取得資格			

# 事業報告

2019年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	住宅部門	報告者	前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す				
事業評価					
<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:入居者の方がこれまで自宅で送って来られた生活と変わらない生活様式をオリンピック鶴甲で継続出来る様に、お一人おひとりに寄り添ったサービス提供を心掛けてケアにあたった。「以前よりも快適に生活出来る様になった」との喜びの声を多く頂けた。</p> <p>2. 財政基盤の確立:長年生活されていた方のご逝去が重なり、かなり入れ替わりがあったが、空き室をすぐに埋めて年度後半には待望の満室へと持って行くことが出来た。暫くは退居の話も無く、安定した運営を継続出来る見込みがたった。</p> <p>3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整えることに力を注ぎ、お一人おひとりの要望に応じて各種手続きをお手伝いしたり、しっかりとお話を傾聴してきた。また、日常に清掃業務に加えて、定期的な清掃、危険箇所が無い様に安全に配慮して建物の維持管理を行った。</p>					

社会福祉法人光朔会

# 事業報告

2019年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	ホームヘルプ	報告者	下地正樹
事業目標	1. オリンピアとしてのケア追及 2. 人材確保・育成 3. 財政基盤の確立 4. 広報活動の強化				
事業評価					
<p>1. 新しく入居された方や体調の悪化がみられる方のケア増加に対応すべく進めてまいりました。前半はヘルパーの不足からコール対応など十分な対応ができなかった状態ですが後半はヘルパーの増員ができ対応の強化はできましたが、朝夕や曜日によってはご要望に対して十分な対応が困難な時がまだあります。時間の工夫をしながら 対応しております。</p> <p>2. 人材確保は、友達紹介等で増員ができ勤務の柔軟性ができるようになりましたが、一定の人材に偏ったケアを進めざる負えない状況が続いております。引き続き人材獲得のための行動は継続していく必要があります。シフトの偏りが少なく、無理のない勤務で質の高いケアを進めていきたいと思っております。</p> <p>3. 保険外収入は、修道会や積極的対応による自費収入が得られました。体調の変化が大きく急遽、帯で朝・昼・夕の対応が必要な方のケアももれなくできました。</p> <p>4. 地域連絡会や医療介護連絡会などに、積極的に参加しオリンピックの存在をアピールしました。外部へのヘルパーではケアの質を向上させオリンピックのケアをPRできたと思っております。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	渡部 倫成
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業評価	<p>1. 財政基盤の確立: サービス付き高齢者向け住宅の入居者がデイサービスを利用するという流れが出来始めており、登録利用者数も少しずつ増えてきた。しかし、外部利用者の数を伸ばすことができなかつたため改善していく必要がある。</p> <p>2. サービスの質の向上: スタッフ一人ひとりがオリンピアの理念を理解してサービス提供にあたることができた。また、年度終盤には利用者様よりデイサービスの雰囲気良かったとの声も聞かれるようになり、オリンピアに対する評価が高まってきたと思われる。</p> <p>3. 人材の確保・育成: 利用者様一人ひとりに寄り添ったサービス提供ができるように、スタッフ同士が刺激しあい成長できることを目標として人材育成にあたった。少しずつではあるが、利用者様の思いに耳を傾けることが出来るようになってきておりチーム全体として成長した。今後は、利用者様がより一層楽しんで頂ける様、チームとしてさらに成長出来る環境を整えていく。</p>				

施設	グループホームオリンピア篠原	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 人材の育成		
総括			
<p>オリンピア篠原は5年目を迎え、地域との交流が更に盛んになった。開所当初から地域に出て行き、地域の行事に積極的に参加し、交流を行ってきたが、今年度は地域の方々をお迎えし、オリンピア篠原を知っていただく機会をより多く持つことができた。オリンピア篠原にお迎えすることになって、より多くの地域の方々に知っていただくことができた。今年度の第三者評価受審では、5年連続で来られた評価機関の社長から「オリンピア篠原は5年でしっかり地域に根ざしたホームとなっていますね。」と非常に高い評価をいただいた。オリンピア篠原は次年度以降も地域に根ざしたホームとして、オリンピア灘や鶴甲と連携を図り、更に情報発信を続け、灘区の認知症ケアの拠点となっていけるよう、環境を整え、地域の方々と共に生きていく。</p>			
事業評価			
<p>1. 「認知症ケア」の確立：採用2年未満のスタッフが多くなったが「オリンピアの理念・3つの約束」に基づいたケアの認識、実践に努め、オリンピアの認知症ケアをスタッフ一人ひとりが意識し、入居者お一人おひとりの「その人らしい」暮らしのお手伝いできた。</p> <p>2. 地域密着の浸透：地域の方々から案内いただいた行事に積極的に参加するとともに、地域の方々や、こども園の園児、児童館の子供達を定期的に迎え、交流を多く持つことができ、地域の交流の場となった。</p> <p>3. 財政基盤の確立：入院者が多かったり、オリンピア篠原で最期を迎えられたりと、稼働率を下げってしまう要因が多く、収益を下げってしまった。しかし、派遣職員を減らし、委託契約の見直しを行うことで活動費用を削減することができ、活動増減差額を増やすことができた。</p> <p>4. 人材の育成：オリンピアの職員となった元派遣職員が2名、オリンピアの初任者研修を受け、職員登用試験を受験し、次年度から職員となる者が1名と、オリンピアの理念に沿ったケアを担う人材が育ってくれた。</p>			
研修	<p>[内部] 新入職員(トレーニング合宿・研修・OJT)・認知症ケア・高齢者虐待防止・身体拘束廃止 ・成年後見・パーソンセンタードケア・感染症対策・テーマ別研修</p> <p>[外部]・認知症介護実践者管理者研修・神戸市コンプライアンス研修・「生と死を考える会」講演会 発達障害理解のための基礎と実践講座・</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>[見学] 入居希望見学・居宅介護支援事業所</p> <p>[ボランティア] 厳島神社だんじり・都賀川を守ろう会・お歌の会・オリンピア都こども園児 都児童館児童</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・ご家族懇談会・第三者評価・消防設備点検、避難訓練・花見 イースター・母の日・父の日・世界自閉症啓発デー・灘区だんじり祭・さくら祭り・敬老のお祝い 有馬一泊旅行・クリスマスリース作り教室・クリスマス会・ページェント・新年会・厳島神社節分祭 雛祭り・オリンピア都こども園交流会・都児童館交流会</p>		
取得資格	初任者研修(1)		



施設	高齢者総合福祉施設 オリμπシア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規事業の開始 5. ケアの質の向上		
総括	<p>2011年度は、オリμπシア兵庫にとって新たなチャレンジの年となった。サービスの質に関しては、GH第三者評価において例年同様高い評価を得ることができたほか、各サービスの稼働率も開所以来トップクラスとなった。また、館長が神戸市の認知症介護研修の講師を務めていることは、行政からも高い評価を得ていることの現れである。</p> <p>Salon de l'Olympia に加え、今年度はオリμπシア福祉ゼミナールやOlympia Market!!などの地域交流イベントを数多く開催することができた。さらに、全国からの多数の見学・実習に加え、今年も多くのメディアに取り上げられた。特にSUN-TV「キラリけいざい」への計6回の出演は、オリμπシアの広報に多大な貢献ができた。これらの取り組みを継続できるよう、来年度も財政基盤の確立、人材の育成に取り組んでいきたい。</p>		
事業評価	<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立：グループホーム・ショートステイ・デイサービスの3部門が連携をより強化し、複数サービス利用者の増加につなげた。また、部門を超えた利用者・スタッフの交流、イベント等も多数実行できた。</p> <p>2. 広報活動の強化：前述の「キラリけいざい」への出演のほか、イベント毎にプレスリリースやHP、Face Bookを利用して積極的な広報活動を実施。特に、チラシの配布に多数のスタッフが自主的に参加したことは特筆できる。</p> <p>3. 財政基盤の確立：非常に高いハードルを設定した2011年度であったが、稼働率の限界まで向上に加え、総額200万円を超える助成金の獲得、新規事業の開始等によって、オリμπシア兵庫として予算を達成することができた。</p> <p>4. 新規事業の開始：Cafe Olympiaの新メニュー開発に積極的に取り組んだほか、デイサービス利用者への弁当販売を開始した。また、新規サービスの可能性についても調査を実施し、来年度以降へのステップとなった。</p> <p>5. ケアの質の向上：理論的かつ実践的な研修の継続的实施によってスタッフの質の向上を行ったほか、リーダー会、ユニットカンファレンス等によって、日々刻々と変化する状況に迅速かつ的確に対応するように努めた。</p>		
研修	<p>[内部]新入職員トレーニング合宿・新入職員研修・新入職員OJT・若手リーダー育成研修・認知症ケア感染症・介護予防・高齢者虐待防止・身体拘束防止・パーソンセンタードケア・スウェーデン研修</p> <p>[外部] 食中毒・感染症予防講習会・感染症対策講座・介護支援専門員従事者研修・救命講習会 LD理解のための基礎と実践講座・自立ケア研修・ユニットリーダー研修・認知症介護実践者研修</p>		
見学・実習 ボランティア	<p>神戸医療福祉専門学校(4)・大阪大学人間科学部(9)・兵庫県少子対策課長・兵庫少年友の会(9) 和歌山県立医科大学(3)・頌栄短期大学(31)・神戸聖ミカエル教会(20)・兵庫県職員(4) 教職課程介護等体験(51)・神戸リハビリテーション福祉専門学校(6)・理想介護スクール(5) 兵庫県立国際高等学校(9)・兵庫県立明石西高等学校(3)・パリ第9大学(1)</p>		
行事	<p>誕生日会・運営推進会議・花見・イースターエッグ作り・Cafe Olympia Special Week! ご家族懇親会・ご家族懇談会・ドライブ・お茶会・映画鑑賞・大衆演劇鑑賞・京都旅行・植樹・スナック バザー(神戸YMCA・オリμπシア神戸北保育園・神戸聖ミカエル教会)・カラオケ・ルミナリエ・和菓子の日 クリスマス礼拝・コンサート・初詣・書き初め・宝塚歌劇・Salon de l'Olympia・Olympia Market!!</p>		
取得資格	介護福祉士(3)・市民救命士(3)		